

神通川水系におけるサクラマス交雑魚の分布状況

富山県農林水産総合技術センター 水産研究所
主任研究員 村木 誠一

1 背景・ねらい

サクラマスは、本県の内水面漁業のみならず沿岸漁業においても重要な魚種であるが、その漁獲量は大きく減少しており、近年は神通川では1トン前後、沿岸では数トン程度で推移している。

また、漁獲量の減少に加え、神通川およびその河口付近で漁獲されたサクラマスにサツキマス（体側に朱点がある個体）が混在していることが報告され（田子 2002）、サクラマス生息域へのサツキマスの侵入が大きな問題となっている。

さらに平成17年には、サクラマスとサツキマス、およびそれらの交雑魚を遺伝的に判別する手法が報告され、かつ神通川に交雑魚が存在することが明らかにされた（Yamazaki 2005）。

本研究では、上記の手法を用い支流を中心とした神通川水系において、サツキマス遺伝子の交雑による遺伝的攪乱の実態を明らかにすることを目的とした。

なお、本調査では、便宜上サツキマス遺伝子の交雑が無い個体をサクラマス純系魚、サツキマス遺伝子を持つ個体を交雑魚（サツキマスか交雑魚かは判別していない）としている。

2 成果の概要

平成22年から神通川水系熊野川およびその支流、同水系井田川支流の計26地点において電気ショッカーおよび投網により計171尾のサクラマス等を採集した。

その結果、熊野川支流で採集した個体は、外観上朱点のある個体は認められなかったものの、遺伝的分析では交雑魚が確認された。しかし、その割合は神通川本川や熊野川における過去の調査結果より低く、また、交雑個体が確認されない河川も存在した。

一方、井田川水系においては、採集個体の多くに朱点が認められ、遺伝的分析の結果、分析した全ての個体からサツキマス遺伝子が確認された。

3 成果の活用面・留意点

神通川水系の広い範囲でサツキマス遺伝子の交雑による遺伝的攪乱が生じていることが明らかとなり、安易な種苗放流に関する警鐘・啓発となる。

また、純系個体群を見つけ、今後の資源保護（純系個体群およびその生息水域の保護）や増殖事業（純系個体群の増殖等）に役立てることができる。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 内水面課
担 当：村木 誠一
T E L：07-475-0036

(参考) 具体的データ

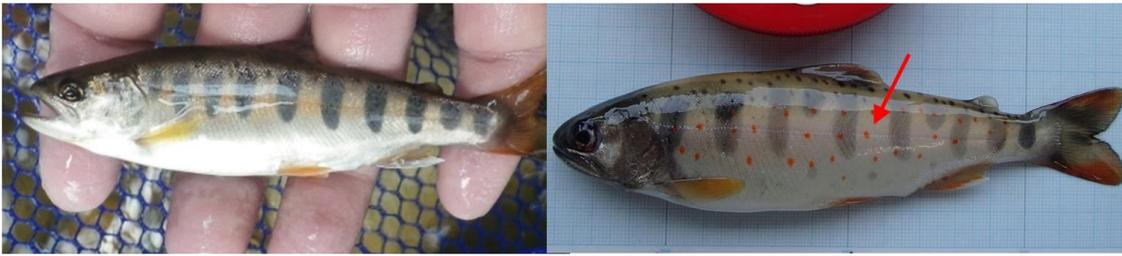


写真1 サクラマス(左)とサツキマス(右)の外見上の違い(矢印は朱点)

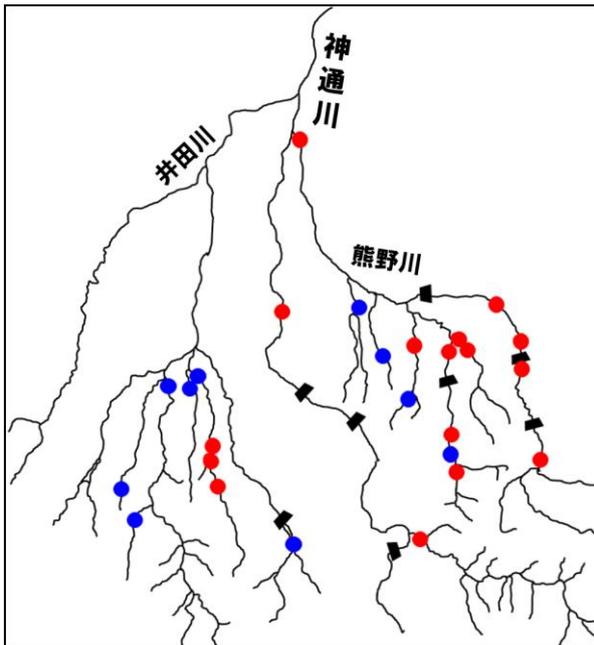


図1 調査場所

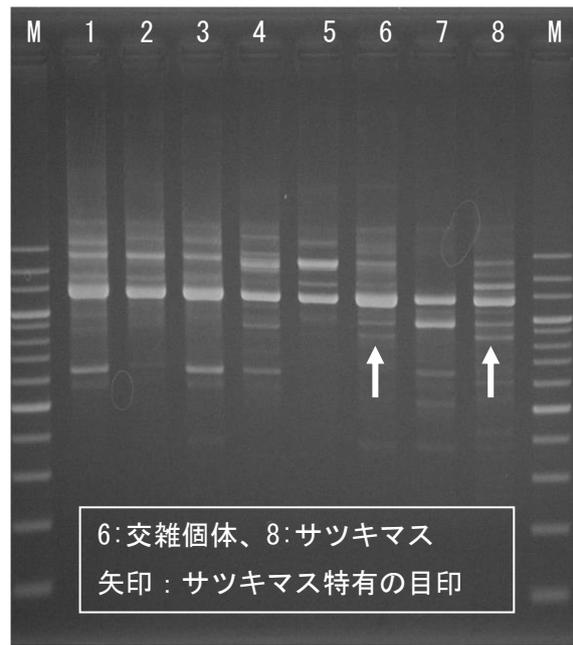


図2 遺伝子検査結果の一例

表1 調査実施結果

水系	調査地点数	採集個体数	分析個体数	朱点割合 (%)	交雑割合 (%)
熊野川水系	15地点	110	65	0	12.3
井田川水系	11地点	61	10	100	100

※交雑個体と判定した個体には、サツキマスも含まれる可能性がある。